

高山の文化を高めた人々

61
同人誌『飛驒作家』を60号まで刊行
霞 好夫(本名 外尾 春雄)
田之下 徳重

ラバウル戦に参加した霞には書く題材はいくらでもあった。『文苑ひだ』の四号に「陰しきがゆえに」五十枚を発表。書評は「文苑ひだ」と交友のあった大山の詩人、吉田暁一郎の「死の山 生の山」を書き、五号には「嘘と真実の遺書」四十五枚を発表した。

霞好夫は、小説を霞好夫名で、評論は本名の外尾春雄で発表することになる。私が書評を頼むと、いつも心よく引き受け、短期間に書いてくれるのだった。



市民文化会館のロビーにて

六号には「復讐」第一部四十五枚と早船ちよ著『キユーポラのある街』（昭和

「末年あれこれ」

NHK高山支局
中林 利数

「和」食に続いて美濃「和」紙がユネスコの世界遺産となった。「和」の広がりとともに、正月のおせち料理も世界各地に広がるかもしれない。

そのおせち料理も、昔と今とではだいぶ変わってきた。昔は仏教の教えで牛や豚は食べなかった。しかしそれはバアちゃんの代までで、今は正月に平気で飛驒牛を食べる。日本では、仏教の除夜の鐘や神道の初詣の前に、キリスト教のお祭りであるクリスマスを特に抵抗なく受け入れている。曖昧というか寛大というか。

アラブの回教徒は、今でも豚を食べないが、羊はよく食べる。羊を焼いたシシカバブーに生のタマネギを合わせて食べたりしている。あの羊の



死海にて

おめでとうございます 文化協会会員の入賞・受賞

(敬称略・順不同)



新井 秀泉(一滴会)
公益社団法人 日本書芸院
「書展」大賞(2回目)
元好問作の漢詩(七言律詩)を出品。二度目の受賞。



洲岬 孝雄
国土交通大臣 観光功労者表彰
国際観光日本レストラン協会常務理事を務め、観光振興に大きく貢献。



谷口 津弥子
藍綬褒章受章
永年に亘り、調停委員を務めた功績。



加藤 妙子(徳山藤泉)
岐阜県伝統文化継承者顕彰(三味線)
徳山流藤泉会会主。永年に亘り、後進の指導や地域行事に尽力。



柚原 博明
岐阜県伝統文化継承者顕彰(伝統工芸・染織)
永年に亘り、卓越した染色技術により飛驒地方の祭・伝統民俗技能を継承するとともに、後進の指導に尽力。

昨年ご紹介した以下の方は、今年も受賞されました。
おめでとうございます。

元田 木山…「日彫展」日彫賞(初)
「改組新日展」彫刻部門 特選(初)

のお二人に霞好夫は特別寄稿を頂きながら『飛驒作家』の創刊を華々しくスタートさせる。

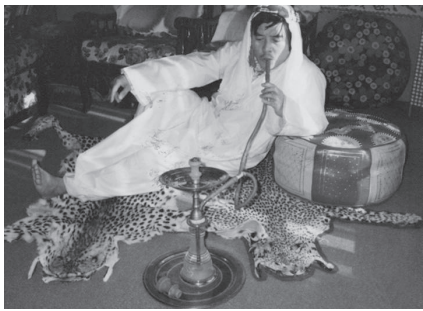
霞好夫は創刊号から「若草の歌」を連載するのであるが、十号から飛驒の歴史に着目し、「大原騒動」について書くことになる。

「やがて来る夜明けのために」大原彦四郎の妻「」は十二号、十三号に発表され、上梓される。その帯に新田次郎が推薦の一文を載せてあるのを抜粋すると、「瞠目すべき歴史小説。大原騒動の全貌を描き、代官夫人の諫死に到る感動の力作」とある。

同じく『飛驒作家』に発表した「天明嵐」は、後に三年間にわたって高山市民時報に連載され好評を博し、同社から上梓された。

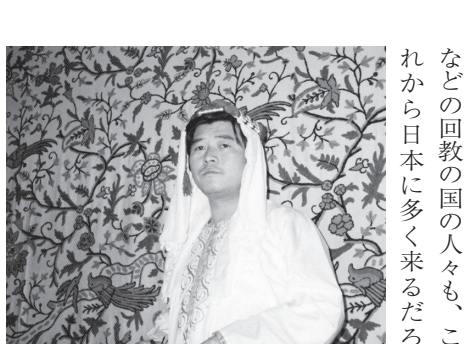
近世の飛驒には二つの騒動があり、江馬修が「梅村騒動」を『山の民』として書き、霞好夫が「大原騒動」を「やがて来る夜明けのために」大原彦四郎の妻」と『天明嵐』の二冊に分けて書いたことになる。

霞が主催し、刊行した『飛驒作家』の終刊号に「幽愁上総介」は第一部のみ掲載されたが、昭和六十三年八月「長編小説 幽愁上総介」として、



水煙草をくゆらせながら

になった。回教徒がイスラム法で許された食べ物のことをいう。食べられない動物は豚だけではなく、犬や虎やロバなどもあり、食べられる動物でも殺し方に正規の手順が要求される。ハラルはハラールが正しく、ハーレム(後宮)などと同じ語源で「禁じる」ということらしい。



ヨルダンのイスラム寺院にて



昭和63年 霞 好夫「幽愁上総介」出版記念会(1列目右から5人目)

「岡目（目）」

すっかりした大地の上に立つて、我々は日々の生活を営んでいると思っているが、実はそうでもないらしいと御岳は教えてくれた。地球の大地というのは卵の殻のようなもので、我々は御岳によって殻の下にマグマの動きの恐ろしさを感じ知らされた。

殻の上でも、温暖化であちこち異常気象が起こっている。去年は夏の長雨が経済指数にまで影響した。野菜だけでなく山のドングリやブナの実にまで及び、日本中でクマが腹を空かせて人里に下りて

来た。飛驒でも被害者が出た。あのクマたちは、今ぐっすり冬眠に入っているのだろうか。マイマイガの大量発生も驚いた。毛虫というのはそれだけで気味が悪いのに、あれだけ葉っぱを食い荒らされてはたまらない。飛驒人にとっては、何かと役に立つ朴葉にまで影響が出た。朴葉なんてものは、その辺のどこでも手に入るものと思っていたから驚いた。

（ガンモン毛筆）

文化協会 加盟団体紹介 「高山市民吹奏楽団」

団長 小坂計時



毎年九月に開催される全飛吹奏楽祭の主催や、学校や町内会からの依頼演奏を行い、クリスマスコンサートやファミリーコンサートも毎年行っております。また、高山市と姉妹都市である米コラド州デンバー市へ、公式訪問使節団として三度訪れ演奏させて頂きました。

う。ハラルという言葉も知らなくてはならない。あの方々は、食べ物に対して日本人ほど曖昧でも寛容でもない。それにしても昔の飛驒の正月が懐かしい。



※写真は昨年の天位作品

平成27年 新春飾り物展

～干支「未」と歌会始御題「本」～

■日時／1月16日(金)～18日(日)
午前9時～午後5時(最終日は午後4時まで)

■会場／高山市民文化会館 3階講堂(一般の部)
美術工芸室(高校生の部)

主催：高山市／(一社)高山市文化協会 共催：高山飾物同好会